

(平成22年度事業報告)
平成22年度事業計画の進捗状況一覧表

本部事務局

No.	平成22年度事業計画 〔具体的な事業計画(目標)〕	計画の達成度				目標達成に向けての課題等
		順調	ほぼ順調である	やや遅れている	遅れている	
1	経営の安定と財源確保			○		・平成22年度の法人全体の収支はマイナスとなります。内訳としては福祉関係はプラスとなり、医療関係はマイナスとなります。原因としては医師の退職、新基準をクリアするために在院日数の短縮、また、神栖市内に特養が開設したことで在宅関係に影響が出てきていることなどがあげられます。さらには3月11日の東日本大震災で鹿島地区が停電、地盤沈下、断水等により通常の診療体制に戻るには数十日かかり、収入減となったために、経営の安定・財源確保については達成できなかった。しかし、今後は鹿島地区の耐震化による病院新館の建設、東京地区の回復リハビリ病棟への変更が今後の「経営の安定」「財源確保」に繋がっていくことを期待します。
	(1)安定した収入を確保			○		・平成22年度については、福祉関係を除き、医療関係のマイナスが大きかったために安定した収入を確保できなかった。
	(2)経費削減を行う	○				・各施設とも経費削減に取り組んでいる。今後も続けていきたい。
	(3)将来のための施設等設備の資金確保をする			○		・前年度同様に収支状況のよい施設については、将来の建て替え等のために積立金を積み立てているが、状況が良くない施設は費用の再検討を行うなど、今後は収支のバランスを図っていかなければならない。
2	社会福祉法人経営の自覚		○			・社会福祉法人としてホームページ等で透明性を高め、地域から信頼を得られる施設を目指して事業に取り組んでいるが、無料低額診療の10%クリアなど社会福祉法人立の法人として自覚を持って、今後も事業を行ってきたい。
	(1)地域福祉推進を担う事業であることの自覚	○				・鹿島地区及び東京地区とも地域に根付いて施設として職員一同自覚をもって日々努力している。
	(2)ホームページ等の充実		○			・ホームページでは透明性のある法人として決算等の状況を掲示、また施設の概要並びに職員、学生募集等に活用している。今後も充実させていきたい。
	(3)無料低額診療事業の推進		○			・鹿島地区においては、同市内に同様施設があるために10%クリアすることが難しい状況にあるが、各施設で協力し取り組んでいきたい。 東京地区においては、10%の基準は達成している。今後も基準を達成できるように取り組んでいきたい。
	(4)諸規定の見直し整備をする	○				・毎年見直しを行い、整備している。今後も見直し整備を行ってきたい。
3	福祉の精神と地域からの信頼		○			・職員が白十字会の原点である「キリスト精神」＝「福祉の精神」をもち、質の高いサービスを提供することを自覚し、地域に根付いて施設として地域から信頼を得るために日々取り組んでいる。
	(1)『福祉の精神』の再認識(コンプライアンス行動基準の基本方針による)		○			・当会は創立100周年を迎え、100周年記念会報の理事長挨拶で、白十字会の存続のために原点である「福祉の精神」を再認識し、地域社会が求める福祉と医療を推進すべく、協力していき、役職員一丸となって築いていきたいと道標を示されて役職員一同『福祉の精神』を再確認した。
	(2)サービスの質の向上及び地域に根付いた施設による魅力ある施設の構築		○			・常にサービスの質の向上を目指し、さらには、魅力ある施設、地域に根付いて施設の構築を目指して日々取り組んでいる。
	(3)安全で安心を提供する施設		○			・安全で安心できる施設の構築を目指して、職員一丸となって努力している。そのためには職員のレベルアップしていくことが大切である。
	(4)施設間での情報交換(個人情報を除く)をする	○				・鹿島支部及び東京支部(管理者会議)等で情報交換を行っている。

No.	平成22年度事業計画 〔具体的な事業計画(目標)〕	計画の達成度				目標達成に向けての課題等
		順調	ほぼ ある 順調 で	やや 遅れ て いる	遅 れ て い る	
4	将来のための人材の確保			○		・今年で法人創立100周年を迎え、今後も安定した法人並びに施設として継続していくには、人材の確保が必要となります。さらに、優秀な人材を確保していくことが必要です。しかしながら、応募者に偏りがあり、募集しても中々応募がない施設があるが、積極的に募集をかけて人材を確保していきたいと考えています。それは、優秀な人材が、これからの法人並びに施設を担っていくからです。
	(1)優秀な人材の確保			○		・人材の確保はいろいろな媒体を利用して募集しているが中々応募がない施設があり、今後もいろいろな媒体を利用して、優秀な人材を確保していきたいと考えています。
	(2)障害のある方の雇用推進			○		・各施設で障害者雇用に取り組んでおり、平成22年度は施設の協力で2.5人雇用することができたが平成22年7月に法律改正により現在は3.5人の不足となっている。今後も雇用に努めていきたいと考えている。 (法定雇用数13名 実用雇用者数9.5名)
	(3)自己啓発による職員のレベルアップ		○			・各施設において、内外部の研修会に参加し、職員のレベルアップを図っている。 今後も続けていきたい。
5	コンプライアンス経営体制の充実		○			・年度初めに各施設あてに、周知徹底させるべく、関係規定を送付した。さらに経営体制を充実していくために何が必要かが今後の検討課題である。
6	法人創立100周年記念事業として白十字総合病院耐震化新築工事を施工する			○		・白十字会創立100周年の記念事業として施工する白十字総合病院耐震化新築工事は平成23年1月より工事を着工することができたが、平成23年3月11日の東日本大震災による影響で、工事の遅れが出ている。
7	支援策が必要な施設への協力 (白十字看護専門学校)	○				・各施設において支援、協力している。看護学校については、ここ数年、受験者数が増加していること、平成23年度から募集人数が30名から35名に増えることにより、安定した経営を目指している。
8	法人本部の機能強化		○			・本部事務局としての管理体制はほぼ確立している。平成24年度からの新会計基準への改正を事務の効率化を含めて、スムーズに移行をできるように進めていきたい。